対話・コミュニティ共創デザイン研究所　活動実績報告書

令和 2 年 10 月 1 日～令和 3 年 9 月 30 日

令和 3 年 11 月 30 日
所長　竹之内　裕文

研究テーマ「死生を支え合う対話とコミュニティの共創デザイン」

本研究所は研究代表者のほか、4 名の研究分担者（学内）、5 名の客員（准）教授（学外）、3 名の教育研究支援員（学外）から構成される。設立一年目は、顔合わせの合同ワークショップ、定例研究会①～死生を支え合う対話の共創デザインへ向けた研究紹介、定例研究会②～死生を支え合うコミュニティの共創デザインへ向けた研究紹介を開催する計画だった。

しかし学外メンバー任用の事務手続きが大幅に遅れたため、実質的に年明けからの始動となった。また研究代表者は令和 3 年 9-12 月に在外研究（グラスゴー大学）を計画していた――新型コロナウィルス感染症のパンデミックのため、令和 4 年 6-9 月に延期された。これらの事態に対処すべく、ワークショップと 2 つの研究会をまとめて、令和 3 年 3 月 7 日（日）に開催した。このキックオフミーティングにはプロジェクト研究所メンバー全員が参加し、共同研究に着手するための共通理解を確立し、研究計画を共有した。そのうえで「対話チーム」――死生を支え合う対話の共創デザインを分担――と「コミュニティチーム」――死生を支え合うコミュニティのデザインと開発を分担――の順に、各メンバーが研究紹介を行い、本プロジェクト研究の可能性を探求した。

前述のキックオフミーティングは、オンラインで開催したため、会合のための旅費等は発生しなかった。令和 2 年度中に応募した科研費（基盤 B）は採択されなかったため、令和 3 年度に再度応募したところである。図書費など当面の研究資金については、各メンバーの個人研究費から充当した。

なお所長の竹之内裕文は単著『死とともに生きることを学ぶ　死すべきものたちの哲学』（ポラーノ出版）が評価され、令和 2 年 10 月 17 日に第 14 回日本医学哲学・倫理学会学会賞を受賞した。